



# 出前講座報告書vol.8

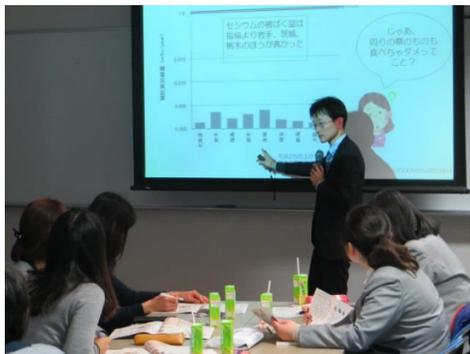


平成26年度 保健師等支援研修会  
いわき市総合保健福祉センター  
2015年1月19日



テーマ 福島における放射線リスク

## 講義



福島県内の放射線データをもとにした内容で、放射線被ばくによるリスクを学ぶ講義でした。  
講師：福島県立医科大学  
災害医療総合学習センター  
副センター長 熊谷敦史先生

## グループワーク



安井先生の進行のもと、講義を受け「今回新しく知ったこと」「住民に伝えたいこと」「自分として一番印象に残ったこと」「もっと知りたかったこと」について、参加者で話し合いを行いました。

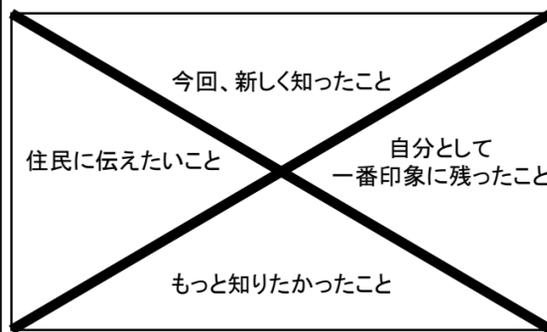
## アンケート集計結果

当日講義のみ参加16名、アンケート回収14名、全行程参加9名、アンケート回収7名でした。

- ・晴れの日しかセシウムが検出されなかった調査結果
- ・甲状腺癌の発見数が韓国で多い理由。
- ・セシウムの吸着に関すること。
- ・セシウムだけでなく、放射性カリウムやポロニウムによる被ばくもあること

A班

- ・放射線ばかりにとらわれず、肥満や運動不足などのリスクもうよく考える必要がある。
- ・震災による原発（放射線）だけが原因で甲状腺の発病が認められるばかりではないこと。
- ・家庭菜園の野菜は食べても大丈夫。
- ・被ばくについて（正しい情報を伝えながら）知識と感覚の違いは尊重していきたい。



- ・三春町の小中学生のデータや、甲状腺癌の発見数や、データに基づいた安全について
- ・悪性ないし悪性疑い109人とあるが、原発によってではない可能性が大きいこと。
- ・陰膳について。
- ・震災後の先天奇形・異常の有無のデータ。

- ・茨城がカリウム被ばくが高いのは、いもの摂取が多いからか。
- ・安全ばかり伝えられるけど、気を付けた方がよいことは本当はないのか。
- ・根拠を伝えてもなお、漠然とした不安を訴える市民にどう対応したらいいか。
- ・いわき市の詳しい調査結果。
- ・甲状腺検査、スクリーニングをやる意味は？
- ・前回40才以上に、ヨウ素剤は必要なのか？

\*1 5段階評価：「1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 大いにそう思う 4と5の合計の割合

## 受講者の感想

- ・最近食品や水について意識している方も減ったように思います。詳細な説明をあらためて聞くことができ、安全について自信を持って伝えていけると思います。
- ・向き合っていこうと思います。
- ・基礎知識が不足しているなと思いました。
- ・不安を抱えている方が納得するためには、今日受けた講義を自分のものにして深め伝えていかなければならないと思いました
- ・疑問なことに答えていただいて、放射線についてタブーになっていることから来るデメリットについて考え、住民の支援を考えていきたいと思いました。
- ・今後の活動をしていく上で、相手が一番放射線の何に不安を感じているのか知り、関わっていききたいと思いました。

## 編集後記

皆様とても熱心に課題に取り組んでくださり、組織・地域全体での放射線の知識の向上が期待される所です。講義のポイントは、放射線に関する基礎知識だけでなく、福島の実況と住民の方の持つ不安や疑問に答えるという内容でした。研修時間が3時間と普段よりも長めでしたが、最後まで熱心に質問して下さいました。後半のグループワークでは、意見交換のテーマを「新しく知ったこと」「自分にとって印象に残ったこと」「もっと知りたいこと」「住民に伝えたいこと」としたことで、お互いに考えていることや疑問に思っていることを共有できたと思います。放射線災害の問題は、まだ終わりが見えないので、この取り組みを今後とも継続してゆきたいと思っております。

